

2007年度 第3回 高2トップレベル記述模試

国語 採点基準

東進コメンツ本部 教務部 国語科

《全問題共通のルール》

表記に関して

解答欄からはみ出た答案 0点

文章が途中で終わり、最後まで書かれていないもの 0点

誤字 1箇所につき1点減点

ただし、同じ漢字は、同じ大問で1度のみ減点とする。

脱字 1箇所につき1点減点

「行つ」「行なつ」など二通りの送り仮名は認める 減点なし

「見る」「らぬき言葉」と「笑つてる」など、「いぬき言葉」「は脱字扱い」

は誤りの箇所にチェックを入れること。

記述問題における文末の「。」

字数制限がない場合 減点なし

字数制限がある場合

(1) 「。」が文末にない時 1点減点 「句点なし」と明記

(2) 最後のマスに「。」と文字が同居している時 0点 「字数超過」と明記

字数制限のある問題での字数超過 0点 「字数超過」と明記

四十一字以上の字数制限問題における字数不足

50%未満の解答 0点 (50%以上の解答が採点対象)

四十字以下の字数制限問題における字数不足 減点せず。

主語・述語の不備。文末不備など表現未熟

1点減点 「表現未熟」「文末不適」と明記。

〈得点記入〉

それぞれの得点を記入。

減点がある場合は、得点欄の上にその旨を記入。

「記述答案の採点法」ここが不十分です。よろしくお願いします。

得点の対象となる部分に傍線を引く。

配点要素を満たしている場合

をつけ得点を記入。

配点はあるが、不完全な場合

をつけ得点を記入。

減点は欄外に記入。

間違いで0点の部分には、スラッシュなど必ず何らかの採点した印を付す。

(例)

(2点)

(2点)

(正解) 男は、かわいらしいと感じた女性を、不憫に感じた。

(4点)

2

(例1) 男は、かわいらしいと感じた女性を、気にかけた。

(2点)

「表現未熟」(主語が抜けている)

(例2) かわいらしいと感じた女性を 不憫に感じた。

(1点)

1

(例3) 男は、かわいらしいと感じ、不憫に思った。

(3点)

2

2 x (誤字1)

(例4) 男は、かわいらしいと感じた女性を、不憫に感じた。

(3点)

(例5) 女は不愉快に感じ、男を意図的に無視した。 **x** または斜線を付す。

□(現代文) 採点基準(合計=30点)

問一 各1点 (解答通り)

(1)ろてい (2)溶解 (3)繁茂 (4)はたん

(5)妨(げる) 送り仮名がついていても可

問二 4点 (解答通り) 激しく動揺する

(模範解答例)

A 1点 B 1点

戦争を「論じる」と「戦争と対極の 平和の状況の中での思考」なの

C 2点

戦争に触れているような錯覚におちいると考えている。

30字以下は0点。

「平和」は設問条件であるので、ない場合は×。つまり最初に「平和」という言葉があることを
確認して採点をスタートするのだ。

文末表現不問。

・ Aの要素 「戦争と対極」という要素になつていれば可。

「戦争と(正)反対」「戦争と逆の状況」など可。「戦争」の現実(と最も遠い)「戦争
(の現実と)もっとも遠ざかっている」も。

また解答のどこかに「戦争」という言葉があれば、たんに「対極」「反対」なども許容。

・ Bの要素 「平和…思考(見方)」という形になつていれば可。

「平和時の考え」、「平和な立場から見ている」、「平和を基盤にしている」

「平和なのに…」「思考(見方)」の欠落で×。

・ Cの要素 本文に「それ(=戦争)に触れている」という錯覚におちいる「とあるので、あまり別

の解答は考えられないが、同趣旨であれば可。

「戦争をしているような錯覚」は「論ずる」ことではないので×。

「戦争にかかわっている錯覚」も「論ずる」こととは限らないが、

このように「論ずること」に限定できない表現は(1点)とする。

問五 3点 (加點法)

(模範解答例)

A 2点 B 2点

操作可能な、あるいは排除可能な 対象。

字数不問。

文末表現は名詞止めになっていれば可。なっていない場合はマイナス1点で「文末不適」と明記。

AB両方で3点 片方の場合は2点。

・「扱いつる対象」は1点。

問六 3点

(模範解答例)

戦争と区別できない 状況 (別解) 戦争との区別が曖昧な 状況。

字数不問。

文末表現は名詞止めになっていれば可。なっていない場合はマイナス1点で「文末不適」と明記。

「戦争と…区別不能」という趣旨になっていれば可。

・「戦争」がなく、たんに「区別できない」という趣旨の解答は1点とする。

問七

() 2点 正解 局部的戦争 () 局部的抗争 () 地域の戦争 ()

・「部分的な戦い・争い」という趣旨で五字であれば可。(五字は条件である)

() 2点 正解 世界戦争

・殆ど他の答えはないと思うが、四字は絶対条件。(四字は条件である)

問八 各2点 (解答通り)

- ・ 以後の時間の質を決定的にかえてしまうような出来事
- ・ 他のあらゆる可能性を排除してしまつて出来事

抜き出し問題なので、これのみ。

誤字・脱字は1箇所につきマイナス1点。(2字誤ると0点)

□(小説) 20点

問一 2点 正解 2 (解答通り)

問二 各2点 (それぞれ完答のみ)

(正解)

- ・ 打たれたの ー 思い出す。
- ・ 父に対する ー り始めた。

ともに最後の「。」を抜いて、「を思い出す」「戻り始めた」は条件無視なのだが、内容はあっているので、それぞれ 1点(とし、「句讀点は含むとある」と明記すること。

問三 4点

(模範解答例)

A 1点

私が学校をさぼったことがわかってしまっ

B 1点

C 2点

父に何をされるかわからないという 恐怖を感じた から。

25字以下0点。

の要素)から・ため・ので などが無い場合はマイナス1点で「文末不適」と明示する
ること。

・ Aの要素 「学校をさぼった」という趣旨であれば可。「倉庫の中に隠れていた」も可。

「私」はなくてもよい。

・ Bの要素 いろいろと考えられる。「正体がわからない」「想像もつかない」「常識を超越する

と」という趣旨であれば可。Bの要素は甘めに採点してください。

・ Cの要素 「恐怖」「怖さ」「恐ろしさ」など「恐怖」系のイメージがあれば可。

「不安」「心配」は表現が弱いので (1点とする)。

問四 2点 完答のみ (1・2両方できて2点) (解答通り)

(正解)

1 無 2 夢

問五 3点 最低得点保障あり

(模範解答例)

A 1点 B 1点 C 1点 D 1点

父の、 普段感じたことのない 私への 愛情

字数不同。

「父の、私への愛情」が骨組みである。これができていれば2点を与える。最低得点保障。

・ Aの要素 「父」以外は×。

・ Bの要素 「日頃感じない」「今回が特別の」など平常と異なる趣旨であれば可。

・ Cの要素 「私へ」「私に対する」など「私」へのベクトルがあれば可。

・ Dの要素 「温かさ」など「熱」に関していれは。

「思い」「想い」「心情」など抽象的なものは×。

問六 5点

(模範解答例)

A 1点

徹平に不満を持ち家から足が遠ざかった私であったが、

B 2点 C 1点 D 1点

父の愛情を思い出すことで、徹平の愛情に気づき、徹平に逢いたいと思った。

35字以下0点。

・ Aの要素 「徹平とうまくいかず」「徹平にわだかまりがあり」など、徹平との関係がこのときは良好でないことを示していれば可。

・ Bの要素 「父の愛情を思い出す」ことが契機になっていることを要求する。

「父とのことで」「父を通じて」と「愛情」に関する要素の欠落は マイナス1点。

・ Cの要素 「徹平の愛情に気づいた」「趣旨になっていれは可。ここは「徹平の本当の気持ちに気づき」などでもよい。またたんに「徹平の気持ちが変わり」「も許容する。

・ Dの要素 「徹平に逢いたい」と心情が明確に書かれていることが条件である。

「急いで家に向かった」「早く家に帰ろうと思った」など心情が具体的にかかれていない場合は×。

三 古文 30点

問一 2点

(正解) いかが思はまし。

「思ふ」の活用形間違い(「思ひ」など)はマイナス1点。
「いかが」の欠落もマイナス1点

問二 2点

(正解) 作者の姉

「姉」は () 1点()

問三 各2点

A B C

(正解) A 返事をし ない ようだ。(減点法)

A～Cの要素各1点。1箇所間違いは1点。

- ・ Aの要素 「返事する」となっていること。
 - ・ Bの要素 打ち消しになっていること。
 - ・ Cの要素 推定の助動詞「なり」「の訳。」「ようだ」「らしい」「など可。
- (その他)「返事が聞こえないようだ」は、趣旨はあっているので、1点を「ええ。」

A B

(正解) B 「ほんとうだ」と言っている

A Bの要素各1点。

- ・ Aの要素 「まったく」「本当だ」「確かに」など可。
- ・ Bの要素 発言を意味していること。「思っている」は×。

問四 正解 () 作者 1点 正解通り

() () 隣家の女性 2点

・ () 「隣の家の人」など女性とわからないものは、 で1点。

正解 () () 作者の姉 1点 正解通り () 「姉」は×

A B

() () 笛を吹いて立ち去った 牛車の主 2点

() () ABの要素各1点。

・ Aの要素 「笛を吹いて立ち去る」となっていること。 たんに「立ち去った」では×。

・ Bの要素 「牛車の男性」も可。 たんに「主」「男性」は×。

問五 各3点

A B C

C (模範解答例) たいそう 不吉に 感じられるので

A～Cの要素各1点。

・ Aの要素 「とても」「大変」など可。

・ Bの要素 「不吉に」「忌まわしく」「不気味に」など可。

(ABの合体形) 「たいへんなこと」と「Aの要素のみ」1点。

・ Cの要素 「感じられる」と自発の意を添えていること。「は」「は」なので・から・ため・と訳して

「る」は×。「感じる」は×。

A B C

D (模範解答例) そのときは 見つからず じま いだ った の た

A～Cの要素各1点。

・ Aの要素 「見つけられず」「は意味として」とする。そのまま「見いださず」は×。

・ Bの要素 「終わってしまった」など可。

・ Cの要素 逆接用法であれば可。

問六 2点 (正解) 作者の姉

「姉」は (1点)。

問七 4点

A 2点

B 2点

(模範解答例) 作者の姉が死んだ後になって、ようやく彼女の探し物が見つかったこと。

字数不問

文末表現は名詞止めになっていれば可。なっていない場合はマイナス1点で「文末不適」と明記。

・ Aの要素 死亡後という趣旨で。ただし「姉」は (1点)

・ Bの要素 『かばねたづぬる宮』が見つかった「物語が見つかった」は。

問八 4点

A 1点 B 2点

C 1点

(模範解答例) 姉が、自分がかばねになるとも知らず、『かばねたづぬる宮』を探したこと。

字数不問

文末表現は名詞止めになっていれば可。なっていない場合はマイナス1点で「文末不適」と明記。

・ Aの要素 「作者の姉」が望ましいが、「姉」で今回は可。

・ Bの要素 「自分が死ぬとも知らず」など「かばね」という言葉が入っていない「死」を意味するものは (1点)。

・ Cの要素 『かばねたづぬる宮』とはっきり作品名を書いてあること。「物語」などは×。

(その他)『かばねの宮』が見つかるより先に、かばねになってしまったこと。×。

問五 5点

(模範解答例)

A 1点

B 1点

C 1点

現在の状況もまた、

人民への慈愛を優先し、

人民の苦しみを述べ

D 2点

君主の哀れみをこつべき

状況なのである。

25字以下0点。

- ・ Aの要素 「現状も同様」とわかる解答であればよい。
- ・ Bの要素 「人民への愛情・慈愛」を「優先し・(大事に)考え・(大事に)思い」など可。
- ・ Cの要素 「人民の苦しみを述べ」のうち、「苦しみ」は「つらい」内容であれば可。またBができていれば、「人民の」はなくても許容。Cができていない場合は許容しない。
- ・ Dの要素 「哀れみをこつ」が必要。たんに「君主に理解を求める」などは (1点)。「君主」がない場合も (1点)。したがって、たんに「理解をえるべき」ではこの要素は×。

問六 3点 正解 仁愛 (正解通り)